

## 1年間を振り返って

那珂支部 流域下水道事務所 技師 濱田 隼

私は今年度、新規採用職員として流域下水道事務所に配属になりました。専門学校では主に測量を学び、卒業までに測量士補の資格を取り、面接試験では道路維持や河川管理等の仕事で力を発揮したいと言ったはずが、任された仕事は下水道でした。なぜでしょう。何かと不安だらけなスタートでしたが、上司や先輩方が面倒を見て下さったので、なんとか仕事ができているかと思います。

私の1年間を振り返ってみると、先輩方に怒られた思い出がずらりと並んでいます。それらをかき分けてもう一度見てみると、とても楽しい職員生活でした。私が現在担当している業務は、ポンプ場の設計、下水道管の調査、浄化センター内の除草や植栽工事です。ほかの工事に比べると簡単な業務なのですが、右も左も分からない私にとっては、十分頭を抱えさせるものでした。分からないことがある度、先輩方から教えてもらうのですが、聞くだけではどうしても全容がつかめず、実際に見て聞いて体験するという一連の流れで教えてほしいというのが正直な感想でした。しかし、先輩たちは常に忙しく新採の私にそう構う時間もないためわがままを言うわけにはいきません。それでも、数少ない時間を見つけ、現場で細かく説明していただいたり、早く慣れるようにと自分で工事の説明をする場を設けていただいたりして、とても感謝しています。

先輩方から業務を習い、研修もたくさん参加させてもらっているため、ある程度の実力はついてきたと思っていたのですが、それでも未だに多くの壁がそびえ立っています。業者から提出される書類の管理がきちんと出来ず、決裁に間に合わなかったり、業者への指示がうまく伝わっておらず書類の再提出を依頼する羽目になったり、他人に迷惑をかけるミスを多発してしまうことが何度もありました。改善すべき点はこれからもどんどん見つけてくると思います。

失敗談を上げていくとキリがないので、私が働いている流域下水道事務所について簡単に説明します。

流域下水道事務所では、御笠川、那珂川、多々良川、宝満川、宝満川上流、筑後川中流右岸、矢部川、遠賀川中流、遠賀川下流の8流域を管轄しています。(遠賀川中流、遠賀川下流及び矢部川の管渠については県土整備事務所管轄)流域下水道という名前だけを聞いてもどんな仕事をしているか、ピンと来ない人も大勢いるかと思います。すごく簡単に説明するなら、『福岡県内の下水道を整備するお仕事』です。例えば下水道を整備することにより、水洗トイレが使えます。そしてお風呂にも入ることができます。その他にも洗濯や料理等、日常生活におけるほとんどのことができるようになります。これらは、私た

ちが日々生活を送る中で、当たり前に行っていることです。逆に言えば、下水道が整備されなければ、これらの当たり前のことができなくなります。その他にも、水質汚染により異臭や伝染病が発生し、生活環境が悪化するのみならず自然環境への影響が及んだり、更には排水不良でいつまで経っても水たまりがなくなる、それどころか町全体が水たまりになってしまう等、私たちの身近な環境に深刻な影響が及びます。私は今、そのようなことを起こさないために仕事をしています。

私は入庁して、もう1年が経とうとしています、まだまだ未熟者だなと感じます。大体の流れを掴めたと思っても、臨機応変な対応、仕事の前さばきができずに、周りに迷惑をかけてしまうことが多く、自分に自信を持てなくなることもあります。

ただ、今までの失敗をどう生かしていくのか、どうやって成長の糧にするかを自分で考えることが社会人として必要なことだと考えます。チャレンジ精神を忘れずに、この職場での経験を積み重ねながら成長し、県職員として活躍していければと思います。